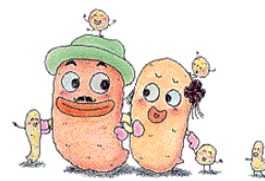


湯戸飛夜いけいけだより



Jinen Joe family

発行 西徳山まちづくりの会

西徳山まちづくりの会20周年

「夜市まちづくりの会」が平成9年6月14日に開催した『西徳山いけいけフェスタ』を契機に、平成10年7月に「夜市まちづくりの会」を発展的に解散し、3地区住民を中心に会員を募り、「西徳山まちづくりの会」を結成しました。

自分の生まれ育った故郷、自分が住んでいるまちが生き生きと豊かで活力あるまちであることは、そのまちに住む多くの人の願いです。そして、生き生きと豊かで活力あるまちは他から与えられるものではなく、そのまちに住んでいる人が創りあげていくものです。こうした思いから、住民と行政のパートナーシップ型のまちづくりを志向し、行政に提案していくという活動を「楽しくなければ始まらない」を合い言葉に行っています。

ワークショップ手法を使い、戸田駅前を中心とした西徳山地区の活性化策を検討し、平成11年10月、西徳山ウソップ物語「湯戸飛夜（ゆーとぴや）基本構想」を策定し、その年の12月、市長に提案しました。

「駅」、「道」、「川」、「祭り」をテーマに活動を続け、行政に提案・要望活動を行ってきました。

平成13年には戸田駅前に西徳山地区の市民が集い交流するための拠点「戸田駅前活性化施設」として『道の駅』の建設を強く市に要望、提案しました。

また、人が賑やかに集うイベントとして『西徳山いけいけフェスタ』を平成25年まで毎年、戸田駅前で開催しました。今は地域住民懇親の場づくりとして戸田駅前広場で年3回ビアガーデンを開催しています。

平成20年4月から広報誌「湯戸飛夜いけいけだより」を4月、7月、10月、1月の年4回定期発行し、会の活動や西徳山地域の話題を皆さんに提供しています。

私たちのまちづくり活動の成果として、戸田駅前トイレの整備、戸田駅前広場の整備が実現しました。昨年度は、花壇と東屋が整備されました。

会では、引き続き、戸田駅前の管理に協力し、『戸田駅を花の駅にしよう』と戸田駅前花壇のお世話を続けて行きます。

西徳山まちづくりの会



記事:

- ・西徳山まちづくりの会20周年

- ・郷土の作家
岩川 隆

- ・連載小説
『涙にぬれた蒼き
思い—徳山七土物
語—』第6回

- ・秋覚祭を開催しました

- ・周南こどもゆめまつりに出店

- ・戸田みのりフェスタに出店

- ・西徳山いけいけ大収穫祭 in ソレーネ周南に出店

- ・今後の行事予定

会員募集中

あなたも「西徳山まちづくりの会」で一緒に活動しませんか。会では、常時、会員を募集しています。

郷土の作家

岩川 隆(いわかわ たかし)



高倉健、吉永小百合主演の「海峡」という映画をご存じだろうか。1981年東宝から配給されている。高倉健扮する国鉄の技師が青函トンネルに挑み、成就する物語である。昭和56年であるから、高倉健も吉永小百合も円熟味を増している時期である。そのほかの出演も森繁久彌、三浦友和、大谷直子らで、豪華俳優陣で構成されている。この「海峡」の原作者こそ誰であろう、わが郷土の作家岩川隆である。

初めて岩川さんと出会ったのは、平成4年。徳山市文化振興財団創立10周年記念の冊子「カルチャア10」に寄稿されておられるのを拝見し、失礼ではあったが、岩川隆という作家を初めて知った次第である。今から思えば、なんと無知だったのかと汗顔の至りである。

岩川さんが才原の実家に帰省されているのを聞きつけて、さっそく訪ねていった。岩川さんは笑顔で歓迎してくださり、様々な作家の世界の話をついた。両切りのピースが入っている缶からピースを1本取り出して、顔をしかめて火をつける。そのまま灰皿へおく。しばらく話に夢中になり、気が付くとピースは燃え殻となっている。タバコを吸うのではなく、燻らせる。岩川さんはそんなことを繰り返された。おそらくものを書く時もそうなのだろう。万年筆はモンブランの太い奴だったのを覚えている。

「僕は、これまで2回直木賞候補に挙がってね。2回とも該当者なしだったんだ。」と笑っておられた。2回の直木賞候補作は「神を信ぜず(B・C級戦犯の墓碑銘)」(中公文庫)と「海峡」(文芸春秋)だろうと思われる。

「僕は、子供のころ住んでいた岩国出身とよく書かれているが、これからは夜市だ。夜市が僕の郷土だ。」とも言ってくださった。



夜市小学校の125周年記念として岩川さんに講演の依頼をしたら、わざわざ東京から帰ってきてくださり、講演の後で著書にサインをしたり、子供たちのノートへのサインの要求に気軽に応じられていた。そのとき話題になった本は「(わが山頭火伝) どうしやうもないわたし」(講談社)だった。夜市小学校の講堂は入りきらないほどの超満員であった。

夜市公民館の竣工の時にも講演をしていた。こうして岩川さんと岩川さんの故郷夜市とのつながりは深まっていき、「この頃はファックスという便利なものがあるので、一人暮らしのおふくろも気になるから、僕も夜市に住んで原稿を書こうかなあ。」とっておられた。

ノンフィクションライターの最高峰である講談社ノンフィクション賞を受賞されたのは、BC級戦犯裁判「孤島の土となるとも」である。この作品は800ページを超える大作であり、岩川さんのライフワークの総仕上げと言っている。2度と繰り返してはいけないう戦争の悲惨さをノンフィクションという視点から描いた未来に語り継ぐべき大切な資料である。

受賞記念パーティーを夜市公民館で開いた時の岩川さんの笑顔が思い出される。その後徳山市でもパーティーを開催しようということになったが、岩川さんは、「もう夜市で開催してもらったから十分です。僕の故郷は夜市です。」と言って、頑として帰ってこられなかった。

それから何年かして、突然岩川さんの訃報を聞き、東京での葬儀に出席した。68歳だったとのこと。読まれた弔電は森繁久彌からのものであり、弔辞は作家の大下英治氏であった。

岩川さんにいただいた著書は、最初は夜市公民館文庫の蔵書としていたが、劣化の恐れがあるので、今は周南市中央図書館の2階に保存してある。

夜市出身の郷土の作家岩川隆がいたことを記憶にとどめたい。

(神本)

連載小説

『涙にぬれた蒼き思い—徳山七士物語—』 第6回 文 城山 耕笹

(これまでのあらすじ)

1864年7月、京都御所にある「蛤御門」において、長州藩と佐幕派及び公武合体派の各藩が激突した。最新の銃器を備えた薩摩藩の加勢により、長州藩は惨敗し、御所に向かう方向への発砲・攻撃で、「朝敵」となった。長州藩は、存亡の危機に至った。

徳山藩では、家老野上源次郎が再び台頭し、尊王攘夷派の取り締まりが始まった。

徳山藩の藩校、「興讓館」。藩内の政治は大いに揺らぎ緊張に満ちた日々の中、小坂次郎佐は、浅田又之丞や大城清とともに、今日も後進の指導にあたっている。大城清は他の2人よりも年長で41歳、小坂は23歳、浅田は33歳。大城清は博学かつ常に冷静沈着のため、藩校の志士から一目置かれる存在である。「大城先生、長州藩は朝敵となりました。これからどう対応したらよいのでしょうか？」と講義内で志士が尋ねると、「今は耐える時期です。今は、萩本藩の重臣椋梨（むくなし）とわが藩の野上家老など、保守勢力が台頭していますが、必ず長州が推進してきた尊王攘夷思想が朝廷に理解してもらえる時が来ます。長州各藩が結束を固くし、外敵に備えるのです。」と、静かな口調が戻ってきた。尊王攘夷を標榜してきた各志士は、出口のない不安と焦燥感にかられ、家老野上源次郎が作成している名簿に、我が名が記されていないか疑心暗鬼でもあった。

夕刻、小坂と浅田、大城が藩校を退出しようとする中、敷地内の一角で数人の志士と話している河本源蔵の姿があった。口数の少ない河本が、珍しく志士に指示を出している様子で、小坂が声をかけようと一人で傍に向かうと、河本を残して志士は散っていった。浅田と大城も、小坂を残して先に退出した。

「次郎佐、相談がある。」と河本が小坂に伝えると、「私の家で話そう、今晚にでも。」と小坂。

河本の放つ雰囲気、小坂もただ事ではないと察した。

その日の夜、河本が次郎佐の家に来た。次

郎佐は、妻（久子）と妻の弟（小坂太一郎）を奥の部屋に送り、二人だけで話すことにした。開口一番、「私は近日、野上家老宅を訪問し、詰問しようと考えている。「幾乃」という側室を殿に輿入れさせ、殿の信頼を得て以来、藩政を思うがまま動かし、些細な罪で政敵を次々と藩政から遠ざけ、京都出兵の折には江田市之進に全ての責任を負わせ、絶体絶命のこの期に及んで何の手立ても考えていない。」と河本が熱弁すると、続いて「場合によっては、家老をその場で殺害する。」と過激な言葉が聞こえた。

「次郎佐、計画を話すのは、訪問に同行して欲しいからだ。常時、家老の側にいる田中一学は、神道無念流と居合が使い、剣が鋭い。ぜひ、加勢して欲しい。」河本は、鋭い視線で次郎佐を見た。

「大城殿の弟でもある江田殿は、確かに今回の京都出兵で大変な苦勞をされた。野上家老は藩政を行う中で、公金を横領してきたという噂も耳にしている。また、政敵を追いやってきた事実は、その通りと考える。長州藩存亡の危機に、徳山藩内が一枚岩となれず、長州各藩も揺れていては、幕府や諸藩に対抗できない。野上家老と向き合うため、直談判しようではないか。」

「ただし、初めから殺気を持って訪問すれば、野上家老に会えない。談判であることを忘れないように。」と次郎佐は冷静な口調で河本に同意した。静かな一夜に、計画が成った。

(以下次号)



西徳山まちづくりの会 編集後記

季刊の「いけいけだより」が第40号を迎えた。創刊から10年が過ぎたということだ。

最初のころは、何度も何度も編集会議を開き、苦労して原稿を仕上げる。それをどこからか貰ってきた印刷機にかける。インクが滲んで字がよく見えない。写真は真っ黒け。印刷機の紙送りが悪いので、一枚ずつ手で繰らなければならない。しかも用紙はB4だった。1回出す度にぐたぐたに疲れていたが、すぐに次の号に取り掛からなければ間に合わなかった。

今では、編集作業も速くなり、印刷も簡単になった。これまで、地域の名所・旧跡、達人、グループ紹介などのシリーズものを手掛けてきた。これからも湯野・戸田・夜市をフィールドにしている私たちは、まちづくりの会の活動はもとより、3地区の人・モノ・所を深堀していきたい。さあ、50号へ向かってGO!

発行責任者

会長 神本康雅
広報部長 木曾裕子

西徳山まちづくりの会

ホームページURL:

nishitokuyama.web.fc2.com

秋覚祭(しゅうかくさい)を開催しました

平成29年11月3日(祝)戸田駅前広場で駅前ピアガーデンを開店しました。参加者は会員7人、一般参加2人の9人でした。



秋刀魚、牡蠣、牛肉のBBQを着にまちづくりの話で大いに盛り上がりました。(呑爺)



周南こどもゆめまつりに出店



総選挙で延期となり平成29年11月5日(日)に開催された周南こどもゆめまつりに、イカ焼きで出店しました。同日開催のみのリフェスタにも出店したため準備を心配していましたが、中学生ボランティアの手伝いのおかげで無事焼きイカの準備ができました。当日は好天気で来客者も多く、イカ焼きは昼までに完売することができました。

戸田みのりフェスタに出店

平成29年11月5日(日)に開催された戸田みのりフェスタに参加しました。当日は天候にも恵まれ、私たちは自慢のカレーで出店しました。今年はフェスタの会場の配置が変更され、一体感があり、お陰様でカレーも完売しました。地域の人々との交流と笑顔がなによりのご褒美でした。

(昭ちゃん)



西徳山いけいけ大収穫祭inソレーネ周南に出店



平成29年11月26日(日)は朝から良い天気で、絶好のイベント日和です。私たちはイカ焼きで出店しました。当日は来客者も多く、焼きイカは昼までに完売することができました。

(呑爺)

今後の行事予定

西徳山まちづくりの会全体会

原則として毎月第1水曜日の19:30から夜市公民館

戸田駅前広場周辺の清掃

毎月第2、第4土曜日の16時から、戸田駅前広場の清掃と花壇の手入れを行っています。

お手伝いしていただける方、大歓迎です。

映画鑑賞会「そうだ!!昔の映画を見よう!」

原則として毎月第3水曜日の19:00から夜市公民館で開催します。興味のある方、是非おいでください。